

福岡女子大学国際文理学部履修規程

平成23年3月24日制定

令和6年12月23日改正（最終）

（趣旨）

第1条 この規程は、福岡女子大学学則又はこれに基づく別段の定めによるもののほか、国際文理学部の教育課程及び履修方法について必要な事項を定めるものである。

（授業科目）

第2条 授業科目は、学則第6条及びその別表第1から第20に定められているとおりとする。

（卒業に必要な単位）

第3条 学則第11条に定める卒業に必要な科目及び単位は、次のとおり修得しなければならない。

授業科目区分		国際教養学科	環境科学科	食・健康学科
学部 共通 科目	ファーストイヤー・ゼミ	1	1	1
	情報・データ活用科目	2	2	2
	学術・キャリア言語プログラム	10	10	10
	外国語科目	4	-	-
	語学研修科目	-	-	-
	上級英語／上級日本語	1	1	1
	リーダーシップ開発科目	6	6	6
	体験学習科目（国内・海外）			
	人文科学科目	2	4	4
	社会科学科目	2	4	4
	自然科学科目	4	2	2
	芸術・感性科目	-	-	-
	健康スポーツ科目	-	-	-
	文理統合科目	2	2	2
	国際文理学講究	-	-	-
留学認定科目	-	-	-	
学 科 科 目	学科基本科目	10	12	8
	専門科目	42	40	44
	卒業研究	8	8	8
自由に選択できる科目		22	26	26
卒業に必要な単位数		124	124	124

(学部共通科目の履修)

- 第4条 ファーストイヤー・ゼミについては、「ファーストイヤー・ゼミⅠ及びⅡ」計1単位を修得しなければならない。
- 2 情報・データ活用科目については、「情報リテラシーⅠ」、「データ解析入門」計2単位を修得しなければならない。
- 3 学術・キャリア言語プログラムについては、次の各号に掲げる事項を満たさなければならない。
- (1) 日本語を母語とする学生は、学術・キャリア英語プログラム(ACE)に属する科目10単位を修得しなければならない。
 - (2) 日本語を母語としない学生は、学術・キャリア日本語プログラム(ACJ)に属する科目10単位を修得しなければならない。ただし、その一部または全てに代えて、学術・キャリア英語プログラム(ACE)を履修することができる。
 - (3) 日本語を母語としない学生は、「日本語総合ⅢA・B」及び「日本語総合ⅣA・B」又は「英語コミュニケーションⅢA・B」及び「英語リーディング・ライティングⅣA・B」を履修し、単位を修得しなければならない。
 - (4) 第1号から第3号の学生の区分に関わらず、母語以外の言語を履修すること。
- 4 外国語科目については、国際教養学科においては「中国語」、「韓国語」、「ドイツ語」、「フランス語」又は「英語」のいずれかのⅠA・B～ⅣA・Bを含んで4単位以上修得しなければならない。ただし、日本語を母語とする学生は、「英語ⅠA・B～ⅣA・B」を履修しても卒業要件単位には含めない。また、母語以外の言語を履修すること。
- 5 上級英語／上級日本語については、次の各号に掲げる事項を満たさなければならない。
- (1) 日本語を母語とする学生は、「上級英語Ⅰ～Ⅲ」のうちから1単位以上を修得しなければならない。
 - (2) 日本語を母語としない学生は、「上級日本語Ⅰ～Ⅲ」のうちから1単位以上を修得しなければならない。ただし、その一部または全てに代えて、「上級英語」を履修することができる。
 - (3) 第1号及び第2号の学生の区分に関わらず、母語以外の言語を履修すること。
- 6 リーダーシップ開発科目及び体験学習科目(国内・海外)については、合わせて6単位以上を修得しなければならない。
- 7 人文科学科目、社会科学科目、自然科学科目、芸術・感性科目、健康スポーツ科目、文理統合科目、国際文理学講究に属する科目のうちから合計18単位以上を修得しなければならない。ただし、文理統合科目については2単位以上を、国際教養学科においては人文科学科目及び社会科学科目はそれぞれ2単位以上、自然科学科目は4単位以上を、環境科学科及び食・健康学科においては人文科学科目及び社会科学科目はそれぞれ4単位以上、自然科学科目は2単位以上を修得しなければならない。
- 8 学部共通科目については語学研修科目からも選択することができ、卒業の単位として認められる。
- 9 留学認定科目については、公立大学法人福岡女子大学留学規則第11条に定めるところによる。
- 10 学部共通科目の授業科目、単位数、履修年次及び履修方法は、別表第1に掲げるとおりとする。

る。

(学科科目の履修)

第5条 学科基本科目については、国際教養学科においては10単位以上を、環境科学科においては必修科目4単位及び「基礎物理学」、「基礎化学」、「基礎生命科学」、「統計学Ⅰ（基礎）」、「環境法総論」から8単位以上を含み12単位以上を、食・健康学科においては8単位以上を修得しなければならない。

2 専門科目については、国際教養学科においては42単位以上を、環境科学科においては40単位以上を、食・健康学科においては44単位以上を修得しなければならない。

(1) 国際教養学科においては、「国際教養演習Ⅰ～Ⅷ」から4単位以上修得しなければならない。

なお、当該4単位は「Ⅰ・Ⅱ」、「Ⅲ・Ⅳ」、「Ⅴ・Ⅵ」、「Ⅶ・Ⅷ」の組み合わせのうち2つの組み合わせで修得されなければならない。かつ、各組み合わせは同一の担当教員によるものでなければならない。また、別表第2の2に定める他学科の科目については、6単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。

(2) 環境科学科においては、2年進級時に環境自然科学履修コース、環境マネジメント履修コースのいずれかを選択し、次の各号に掲げる履修コースの科目から、選択した履修コースの科目を40単位以上修得しなければならない。なお、環境自然科学履修コースを選択した場合は、さらに、2年次後期に、履修する主要な探求分野を選択しなければならない。

ア 環境自然科学履修コースは、「環境自然科学科目」に属する科目から40単位以上修得しなければならない。ただし、環境自然科学基礎分野において、「基礎分析化学」2単位、「有機化学」2単位、「生命の分子的基盤」2単位、「細胞の生物学」2単位、選択A科目から4単位、選択B科目から2単位を含む。さらに、環境物質探求分野の選択においては、「環境物質論および実習Ⅰ、ⅡA・B」計4単位、選択C科目から10単位、選択D科目から2単位の合計で16単位を含むか、あるいは環境生命探求分野の選択においては、「環境生命論および実習Ⅰ、ⅡA・B」計4単位、選択E科目から8単位、選択F科目から3単位、選択G科目から4単位の合計で19単位を含む。また、別表第3の3に定める他学科の科目については、2単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。

イ 環境マネジメント履修コースは「環境マネジメント科目」に属する科目から40単位以上修得しなければならない。ただし、環境政策・生活分野において、「環境政策総論」2単位、「環境生活学」2単位、「衣環境デザイン論」2単位、住環境デザイン分野において「エコライフスタイル学」2単位、環境情報・データサイエンス分野から2単位以上、及び「環境マネジメント実習Ⅰ、ⅡA・B」計4単位を含む。また、別表第3の3に定める他学科の科目については、10単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。

3 卒業研究については、8単位を修得しなければならない。

4 各学科（環境科学科においては各履修コース）において履修すべき学科科目の授業科目、単位数、必修・選択の別、履修年次及び履修方法は、別表第2（国際教養学科）、別表第3（環境科学科）及び別表第4（食・健康学科）に定めるとおりとする。

(自由に選択できる科目の履修)

第6条 卒業に必要な単位のうち、国際教養学科においては22単位、環境科学科及び食・健康学科においては26単位については、学部共通科目、他学科を含む学科科目（国際教養学科及び環境科学科においては、食・健康学科が指定する科目を除く）から自由に選択して履修することができる。また、履修した科目は、第7条に記載した副専攻の認定に必要な科目とすることができる。

2 前項に規定する食・健康学科が指定する科目は、第9条に規定する科目とする。

3 福岡女子大学教職課程履修規程に定める科目のうち、同規程別表第1及び2の「教育実践に関する科目」及び別表第2の「栄養に係る教育に関する科目」及び別表第3、4、5の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」は、卒業に必要な単位のうち自由に選択できる科目として認められる。

(副専攻)

第7条 学生が他学科の授業科目等を副専攻科目として、福岡女子大学副専攻の認定に関する規則にもとづき履修した場合、その学修成果を「副専攻」として認定する。

(教育職員免許状)

第8条 教育職員免許状の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める。

(栄養士免許状及び管理栄養士国家試験受験資格)

第9条 栄養士免許状及び管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める。

(食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格)

第10条 食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める。

(履修手続)

第11条 授業科目を履修するためには、定められた期日までに履修登録を行わなければならない。登録のない科目については受講しても単位の認定は行わない。

2 履修登録は、各学期の授業開始の日から14日以内で学期ごとに別に定める期間内に教務システムより行う。

3 同一時限に開講されている科目については、2科目以上の重複履修は認められない。

4 履修登録した科目の履修登録の取消は、履修取消期間に行う。ただし、学外研修をとまなう科目については、教授会が認めた場合には期間を過ぎても履修登録の取消ができる。

(履修制限)

第12条 1年次から4年次までの各年次において、履修制限を設ける。

2 履修できる単位数は、各年次45単位までとする。

- 3 学則別表第 19 に規定する「教職に関する専門科目」の修得単位は前項に定める履修制限単位に含めない。
- 4 教授会が認めた場合には前 2 項に掲げる履修制限単位を超えて履修することができる。

(定期試験)

第 13 条 授業科目を履修した者については、学則第 15 条に基づいて、各学期末、各クォーター末又は各学年末に期間を定めて定期試験（筆記、口述、論文等）を行い、学修の成果を評価する。ただし、学期、クォーター又は学年の途中で完結する授業科目については、臨時にこれを行うことがある。

- 2 定期試験において不正行為が行われた場合、学長は、学生懲戒規程（法人規程第 70 号）に基づき処分を行うものとする。
- 3 前項の処分を受けた学生については、当該科目だけでなくそのクォーターの全履修科目の登録を取り消すものとする。

(追試験)

第 14 条 病気その他正当な理由により定期試験を受けることができなかつた者は、追試験を受けることができる。

- 2 追試験を希望する者は、定期試験を受講できなかった理由を証明する書類（例えば、病気の場合は医師の診断書等）を添えて、当該科目試験終了の日から 5 日以内で学期又はクォーターごとに別に定める期限内に「追試験願」を教務企画センターに提出するものとする。
- 3 追試験は、学部長が正当な理由と認めたものに限り、学期又はクォーターごとに別に定める追試験実施期間において行う。

(再試験)

第 15 条 定期試験に不合格となつた者は、当該科目の担当教員の承認を得て、再試験を受けることができる。

(成績の評価と単位修得の認定)

第 16 条 学業成績の評価は、原則として定期試験の成績及び平素の成績によって行う。

- 2 学業成績は 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。合格者には単位が与えられる。
- 3 前項の学業成績は 90 点以上を「S」、80 点以上 90 点未満を「A」、70 点以上 80 点未満を「B」、60 点以上 70 点未満を「C」、60 点未満を「D」の 5 段階の評語をもって表す。
- 4 再試験による学業成績は、当該成績の 8 割が 60 点以上のものを合格とし、合格の場合の成績は一律「C」とする。
- 5 その学期の実授業時間の 3 分の 2 以上出席していない科目については、成績の評価は行わず、単位修得を認めない。
- 6 実験実習科目の単位は、関連する講義等の単位を修得していないと与えられない。
- 7 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。

8 授業科目の成績評価に関し、当該授業科目を履修した学生は、疑義を申し出ることができる。疑義を申し出る際、学生は所定の期日までに成績疑義照会願を提出する。

(他大学等で修得した単位等の認定)

第17条 学則第13条で定める他の大学等で修得した単位等の認定は、学部教授会の議を経て学部長が行う。

(成績評定平均値)

第18条 各授業科目の成績評価に対応して評点（グレードポイント。以下「GP」という。）を付与し、1単位当たりの成績評定平均値（グレードポイントアベレージ。以下「GPA」という。）を算出する。

2 GPAに関する取扱いについては別に定める。

(卒業研究演習及び卒業論文の履修要件)

第19条 卒業研究演習及び卒業論文を履修するためには、3年以上在学し、次に定める単位を修得しておかなければならない。

(1) 学部共通科目については、次の各号のとおりとする。

ア 国際教養学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ及びⅡ」計1単位、学術・キャリア言語プログラムと外国語科目を合わせて10単位を含む30単位以上。

イ 環境科学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ及びⅡ」計1単位、情報・データ活用科目2単位、学術・キャリア言語プログラム10単位、リーダーシップ開発科目及び体験学習科目計4単位、人文科学科目及び社会科学科目、自然科学科目、芸術・感性科目、健康スポーツ科目、文理統合科目、国際文理学講究計16単位を含む33単位以上。

ウ 食・健康学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ及びⅡ」計1単位、情報・データ活用科目2単位、学術・キャリア言語プログラム10単位、リーダーシップ開発科目及び体験学習科目計4単位、人文科学科目及び社会科学科目、自然科学科目、芸術・感性科目、健康スポーツ科目、文理統合科目、国際文理学講究計16単位を含む33単位以上。

(2) 学科科目については、次の各号のとおりとする。

ア 国際教養学科においては30単位以上。ただし、「国際教養演習Ⅰ～Ⅷ」から2単位以上修得すること。なお、当該2単位は「Ⅰ・Ⅱ」、「Ⅲ・Ⅳ」、「Ⅴ・Ⅵ」、「Ⅶ・Ⅷ」のいずれかの組み合わせで修得されなければならない。かつ、同一の担当教員によるものでなければならない。

イ 環境科学科においては、学科基本科目10単位、履修コースの専門科目32単位以上。ただし、第5条第2項第2号に規定する選択した履修コースが、環境自然科学履修コースの場合は、履修コースの必修科目8単位以上に加え、選択A・B・C・D科目より16単位以上あるいは選択A・B・E・F・G科目より16単位以上を含むこと。選択した履修コースが、環境マネジメント履修コースの場合は、履修コースの必修科目8単位以上及び環境情報・データサイエンス分野から2単位以上を含むこと。

ウ 食・健康学科においては、学科基本科目8単位、「食・健康科学基礎演習A・B」、「食・健康科

学総合演習 A・B」計 2 単位及び専門科目 34 単位を含む 36 単位以上。

(3) 上記の第 1 号及び第 2 号を含めた総修得単位については、国際教養学科においては 90 単位以上、環境科学科においては 100 単位以上、食・健康学科においては 106 単位以上。

- 2 卒業研究演習及び卒業論文履修資格の認定は、3 年次終了時及びそれ以降の各学期の終了時まで、教授会の議を経て、学部長が行う。
- 3 第 1 項にかかわらず、海外留学等、教授会が正当と認める事由が存在する場合、学部長は履修を認めることができる。

(卒業研究演習及び卒業論文)

第 20 条 卒業研究演習及び卒業論文の履修は、原則として学生が所属する学科の専任教員のもとで行うものとする。さらに環境科学科においては、履修コースにおいて行うものとする。

- 2 卒業研究の成果は、これをまとめて卒業論文として提出し、審査を受ける。
- 3 卒業論文の様式及び卒業論文提出の期限については各学科において別に定める。
- 4 卒業論文については、学科ごとに別に定める方法により審査を実施し、教員で構成された各学科の卒業論文判定会議において合否を決定する。
- 5 卒業研究演習及び卒業論文が不合格と判定された場合は、次学期に審査を受けることができる。
- 6 病気その他の事由（病気の場合は、診断書等を提出のこと）で卒業論文の提出が期限に遅れた者については、教授会が正当と認めた場合に限って、当該学期内に審査を受けることができる。

(卒業の認定と期日)

第 21 条 卒業の認定は、4 年次終了時及びそれ以降の各学期の終了時まで、教授会の議を経て学部長が行う。

- 2 卒業の期日は、卒業式の日付とする。ただし、第 20 条第 6 項に定める卒業論文審査に合格した者の場合は、年度末の卒業の場合は 3 月 31 日付、前期末の卒業の場合は 9 月 30 日付とする。

附 則

この規程は、平成 23 年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 1 月 25 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の国際文理学部履修規程の規定は、平成 30 年 4 月 1 日以降に入学した学生について適用し、平成 30 年 3 月 31 日現在に在学する学生については、改正前の国際文理学部履修規程の規定は、なおその効力を有する。

ただし、改正後の第 12 条、第 14 条、第 15 条及び第 16 条の規定の適用については、この限りではない。

- 3 平成 30 年 4 月 1 日以降において、本学に編入学し、転学し、又は再入学した者に係る授業科目、単位数、卒業要件等に関しては、当該者の属する年次と同一年次に属する者の例による。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の国際文理学部履修規程の規定は、令和 4 年 4 月 1 日以降に入学した学生について適用し、令和 4 年 3 月 31 日現在に在学する学生については、改正前の国際文理学部履修規程の規定は、なおその効力を有する。
- 3 令和 4 年 4 月 1 日以降において、本学に編入学し、転学し、又は再入学した者に係る授業科目、単位数、卒業要件等に関しては、当該者の属する年次と同一年次に属する者の例による。

附 則

この規程は、令和 4 年 6 月 10 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 6 年 12 月 23 日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。

※履修学年欄の数字は、当該科目を履修することができる最低学年を示している。

別表第1 国際文理学部における学部共通科目とその履修方法

科目区分	授業科目名と単位数	履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)		
ファーストイヤー・ゼミ	ファーストイヤー・ゼミⅠ	0.5	1	必修	1 単位	
	ファーストイヤー・ゼミⅡ	0.5	1	必修		
情報・データ活用科目	情報リテラシーⅠ	1	1	必修	2 単位以上	
	情報リテラシーⅡ	1	1	選択		
	データ解析入門	1	1	必修		
	プログラミング入門	2	2	選択		
	情報デザイン	2	1	選択		
	情報科学特別講義	2	2	選択		
学術・キャリア言語プログラム	英語コミュニケーションⅠA	0.5	1	必修※	10 単位	10 単位必修
	英語コミュニケーションⅠB	0.5	1	必修※		
	英語コミュニケーションⅡA	0.5	1	必修※		
	英語コミュニケーションⅡB	0.5	1	必修※		
	英語コミュニケーションⅢA	0.5	2	必修※		
	英語コミュニケーションⅢB	0.5	2	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅠA	0.5	1	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅠB	0.5	1	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅡA	0.5	1	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅡB	0.5	1	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅢA	0.5	1	必修※	※日本語を母語とする学生は、学術・キャリア英語プログラムを履修すること。	
	英語リーディング・ライティングⅢB	0.5	1	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅣA	0.5	2	必修※		
	英語リーディング・ライティングⅣB	0.5	2	必修※		
	英語プレゼンテーションA	0.5	1	必修※		※日本語を母語としない学生は、学術・キャリア日本語プログラムを履修することができる。
	英語プレゼンテーションB	0.5	1	必修※		
	英語セルフラーニングⅠA	0.5	1	必修※		
	英語セルフラーニングⅠB	0.5	1	必修※		
	英語セルフラーニングⅡA	0.5	1	必修※		
	英語セルフラーニングⅡB	0.5	1	必修※		
日本語総合ⅠA	0.5	1	必修※	10 単位	※母語以外の言語を履修すること。	
日本語総合ⅠB	0.5	1	必修※			
日本語総合ⅡA	0.5	1	必修※			
日本語総合ⅡB	0.5	1	必修※			
日本語総合ⅢA	0.5	2	必修※			
日本語総合ⅢB	0.5	2	必修※			
日本語総合ⅣA	0.5	2	必修※			
日本語総合ⅣB	0.5	2	必修※			
日本語ライティングⅠA	0.5	1	必修※			
日本語ライティングⅠB	0.5	1	必修※			
日本語ライティングⅡA	0.5	1	必修※			
日本語ライティングⅡB	0.5	1	必修※			
日本語ライティングⅢA	0.5	1	必修※			
日本語ライティングⅢB	0.5	1	必修※			
日本語文法A	0.5	1	必修※			
日本語文法B	0.5	1	必修※			
日本語コミュニケーションⅠA	0.5	1	必修※			
日本語コミュニケーションⅠB	0.5	1	必修※			
日本語コミュニケーションⅡA	0.5	1	必修※			
日本語コミュニケーションⅡB	0.5	1	必修※			

外国語科目	中国語 I A	0.5	1	選択※	国際教養学科は4単位以上 ただし、上記の単位数にはいずれか1つの言語の I A・B～IV A・B を必ず含んでいなければならない。 ※日本語を母語とする学生は、英語 I A・B～IV A・B を履修しても卒業要件単位に含めない。 ※母語以外の言語を履修すること。
	中国語 I B	0.5	1	選択※	
	中国語 II A	0.5	1	選択※	
	中国語 II B	0.5	1	選択※	
	中国語 III A	0.5	1	選択※	
	中国語 III B	0.5	1	選択※	
	中国語 IV A	0.5	1	選択※	
	中国語 IV B	0.5	1	選択※	
	中国語 V A	0.5	2	選択※	
	中国語 V B	0.5	2	選択※	
	中国語 VI A	0.5	2	選択※	
	中国語 VI B	0.5	2	選択※	
	韓国語 I A	0.5	1	選択※	
	韓国語 I B	0.5	1	選択※	
	韓国語 II A	0.5	1	選択※	
	韓国語 II B	0.5	1	選択※	
	韓国語 III A	0.5	1	選択※	
	韓国語 III B	0.5	1	選択※	
	韓国語 IV A	0.5	1	選択※	
	韓国語 IV B	0.5	1	選択※	
	韓国語 V A	0.5	2	選択※	
	韓国語 V B	0.5	2	選択※	
	韓国語 VI A	0.5	2	選択※	
	韓国語 VI B	0.5	2	選択※	
	ドイツ語 I A	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 I B	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 II A	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 II B	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 III A	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 III B	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 IV A	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 IV B	0.5	1	選択※	
	ドイツ語 V A	0.5	2	選択※	
	ドイツ語 V B	0.5	2	選択※	
	ドイツ語 VI A	0.5	2	選択※	
	ドイツ語 VI B	0.5	2	選択※	
	フランス語 I A	0.5	1	選択※	
	フランス語 I B	0.5	1	選択※	
	フランス語 II A	0.5	1	選択※	
	フランス語 II B	0.5	1	選択※	
フランス語 III A	0.5	1	選択※		
フランス語 III B	0.5	1	選択※		
フランス語 IV A	0.5	1	選択※		
フランス語 IV B	0.5	1	選択※		
フランス語 V A	0.5	2	選択※		
フランス語 V B	0.5	2	選択※		
フランス語 VI A	0.5	2	選択※		
フランス語 VI B	0.5	2	選択※		
英語 I A	0.5	1	選択※		
英語 I B	0.5	1	選択※		
英語 II A	0.5	1	選択※		
英語 II B	0.5	1	選択※		
英語 III A	0.5	1	選択※		
英語 III B	0.5	1	選択※		
英語 IV A	0.5	1	選択※		
英語 IV B	0.5	1	選択※		
語学研修科目	海外語学研修 I	1	1	選択	
	海外語学研修 II	1	1	選択	
	海外語学研修 III	1	1	選択	

上級英語／上級日本語	上級英語Ⅰ	1	2	選択※	1単位以上 ※日本語を母語とする学生は、上級英語を履修すること。 ※日本語を母語としない学生は、上級日本語を履修すること。ただし、その一部または全てに代えて、上級英語を履修することができる。 ※母語以外の言語を履修すること。
	上級英語Ⅱ	1	2	選択※	
	上級英語Ⅲ	1	2	選択※	
	上級日本語Ⅰ	1	3	選択※	
	上級日本語Ⅱ	1	3	選択※	
	上級日本語Ⅲ	1	3	選択※	
リーダーシップ開発科目	福岡女子大学論	1	1	選択	6単位以上
	福岡女子大学史	2	1	選択	
	ジェンダー	2	1	選択	
	ジェンダーと法	2	1	選択	
	包摂社会と人権	2	1	選択	
	リーダーシップ論	2	1	選択	
	キャリア形成論	2	1	選択	
	キャリアインターンシップ	2	2	選択	
	グローバルリーダー論	2	2	選択	
	グローバルリーダー実習	2	3	選択	
体験学習科目	地域共創論	2	1	選択	6単位以上
	体験学習Ⅰ	2	1	選択	
	体験学習Ⅱ	2	1	選択	
	体験学習Ⅲ	2	1	選択	
	体験学習Ⅳ	2	1	選択	
	海外体験学習Ⅰ	2	1	選択	
	海外体験学習Ⅱ	2	1	選択	
	海外体験学習Ⅲ	2	1	選択	
人文科学科目	人間の思索	2	1	選択	国際教養学科は2単位以上 環境科学科、食・健康学科は4単位以上
	言語コミュニケーション論	2	1	選択	
	宗教と文化	2	1	選択	
	多文化社会論	2	1	選択	
	比較文学	2	1	選択	
	国際関係史	2	1	選択	
	国際文化論	2	1	選択	
社会科学科目	日本国憲法	2	1	選択	国際教養学科は2単位以上 環境科学科、食・健康学科は4単位以上
	現代社会論	2	1	選択	
	現代東アジア地域論	2	1	選択	
	国際経済概論	2	2	選択	
	国際関係概論	2	1	選択	
	食料経済学概論	2	2	選択	
	社会調査法	2	2	選択	
自然科学科目	生活と環境科学	2	1	選択	国際教養学科は4単位以上 環境科学科、食・健康学科は2単位以上
	物理学と現代社会	2	1	選択	
	数理学と現代社会	2	1	選択	
	物質と環境	2	1	選択	
	生態系の生物学	2	1	選択	
	食品安全科学概論	2	1	選択	
	食健康論	2	1	選択	
芸術・感性科目	感性	2	1	選択	
	芸術コミュニケーションⅠ	2	1	選択	
	芸術コミュニケーションⅡ	2	1	選択	
	書道芸術	2	1	選択	
	書道実技	2	1	選択	
健康スポーツ科目	健康スポーツ実習A	0.5	1	選択	
	健康スポーツ実習B	0.5	1	選択	
	健康スポーツ実習C	0.5	1	選択	
	健康と身体活動	1	1	選択	
文理統合科目	文理統合科目Ⅰ	2	1	必・選	2単位以上
	文理統合科目Ⅱ	2	1	必・選	
	文理統合科目Ⅲ	2	1	必・選	
国際文理学講究	国際文理学講究ⅠA	1	1	選択	
	国際文理学講究ⅠB	1	1	選択	
	国際文理学講究ⅠC	1	1	選択	
	国際文理学講究ⅠD	1	1	選択	
	国際文理学講究ⅡA	2	1	選択	
	国際文理学講究ⅡB	2	1	選択	
	国際文理学講究ⅡC	2	1	選択	
	国際文理学講究ⅡD	2	1	選択	

別表第2 国際教養学科の学科科目とその履修方法（その1）

科目区分	授業科目名と単位数	履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
学科基本科目	倫理学	2	1	選択	10単位以上
	日本文学	2	1	選択	
	欧米文学	2	1	選択	
	日本語学	2	1	選択	
	英語学	2	1	選択	
	歴史学	2	1	選択	
	法学	2	1	選択	
	政治学	2	1	選択	
	経済学	2	1	選択	
	経営学	2	1	選択	
	社会学	2	1	選択	

別表第2 国際教養学科の学科科目とその履修方法(その2)

科目区分	授業科目名と単位数	履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
専門科目	哲学概論	2	2	選択	
	日本文化論	2	2	選択	
	中国文化概論	2	2	選択	
	韓国文化論	2	2	選択	
	アジアの現代文化	2	2	選択	
	ヨーロッパ文化概論	2	2	選択	
	欧米文化理論	2	3	選択	
	ドイツ言語文化文献講読	2	3	選択	
	フランス言語文化文献講読	2	3	選択	
	日本古典文化と文学	2	2	選択	
	日本近代文化と文学	2	3	選択	
	日本文学史	2	2	選択	
	中国古典文学	2	2	選択	
	近代日本文学講義	2	2	選択	
	現代日本文学講義	2	3	選択	
	古典文学実践研究	2	2	選択	
	日本言語文化文献講読	2	2	選択	
	漢文学講義	2	3	選択	
	日本古典文学講義Ⅰ	2	3	選択	
	日本古典文学講義Ⅱ	2	3	選択	
	英文学史	2	2	選択	
	アメリカ文学史	2	2	選択	
	英語圏の文化と文学Ⅰ	2	2	選択	
	英語圏の文化と文学Ⅱ	2	2	選択	
	英語圏の文化と文学Ⅲ	2	3	選択	
	英語圏の文化と文学Ⅳ	2	3	選択	
	英語文化文献講読	2	3	選択	
	国語表現(音声・文法・表記)	2	2	選択	
	日本語文法論	2	2	選択	
	日本語教育概論	2	2	選択	
	日本語教授法Ⅰ	2	2	選択	
	日本語教授法Ⅱ	2	3	選択	
	日本語音韻論	2	3	選択	
	日本語表記論	2	3	選択	
	日本語教育実習	2	3	選択	
	中国言語文化文献講読	2	3	選択	
	韓国言語文化文献講読	2	3	選択	
	韓国言語文化論演習	2	3	選択	
	英語文化概論	2	2	選択	
	英語音声学	2	2	選択	
	英語の歴史	2	2	選択	
	英語文法論	2	3	選択	
	英語コミュニケーション	2	3	選択	
英語学文献講読	2	3	選択		

	英語文章表現演習	2	3	選択	
専 門 科 目	日本史概論	2	2	選択	「国際教養演習Ⅰ～Ⅷ」の 4単位を含み合計42単位 以上修得すること。
	日本外交文化史Ⅰ	2	2	選択	
	日本外交文化史Ⅱ	2	2	選択	
	日本文化史講義	2	3	選択	
	日本政治論	2	3	選択	
	東南アジアの歴史と社会	2	2	選択	
	東アジアの歴史	2	2	選択	
	中国近現代史	2	2	選択	
	朝鮮近現代史	2	2	選択	
	欧米史概論	2	2	選択	
	ヨーロッパ政治史	2	2	選択	
	国際政治史	2	3	選択	
	比較政治学	2	3	選択	
	東南アジア政治論	2	2	選択	
	東アジア地域関係論	2	3	選択	
	国際関係論Ⅰ	2	2	選択	
	国際関係論Ⅱ	2	3	選択	
	国際機構論	2	2	選択	
	国際法Ⅰ	2	2	選択	
	国際法Ⅱ	2	3	選択	
	国際開発論	2	2	選択	
	国際協力・NGO論	2	3	選択	
	グローバル・フィールド学	2	3	選択	
	平和と安全保障	2	3	選択	
	国際関係特別講義Ⅰ	2	3	選択	
	国際関係特別講義Ⅱ	2	3	選択	
	社会科学外書講読Ⅰ	2	2	選択	
	社会科学外書講読Ⅱ	2	3	選択	
	社会科学外書講読Ⅲ	2	2	選択	
	社会科学外書講読Ⅳ	2	2	選択	
	ミクロ経済学Ⅰ	2	2	選択	
	ミクロ経済学Ⅱ	2	2	選択	
	マクロ経済学Ⅰ	2	2	選択	
	マクロ経済学Ⅱ	2	2	選択	
	財政学	2	3	選択	
	金融論	2	3	選択	
	経済政策	2	3	選択	
	日本経済	2	3	選択	
	中国経済論	2	3	選択	
	東アジア経済論	2	3	選択	
	国際経済学	2	2	選択	
	開発経済学	2	3	選択	
マーケティング論	2	2	選択		
会計学	2	2	選択		
経営戦略	2	2	選択		

	経営管理論	2	2	選択	
	国際経営学	2	2	選択	
	財務分析	2	3	選択	
	組織行動論	2	3	選択	
	人的資源管理	2	3	選択	
専門科目	イノベーション・マネジメント	2	3	選択	
	アジア産業論	2	2	選択	
	日本・アジアの企業経営	2	3	選択	
	社会心理学	2	2	選択	
	メディア文化論	2	3	選択	
	アジアとジェンダー	2	2	選択	
	中国社会学	2	2	選択	
	韓国社会学	2	2	選択	
	東アジアの法と社会	2	2	選択	
	東南アジアの経済と社会	2	2	選択	
	南アジアの政治と社会	2	2	選択	
	東アジア社会研究講読	2	3	選択	
	東南アジア地域経済論	2	3	選択	
	アメリカの政治と社会	2	2	選択	
	現代ヨーロッパの政治と社会	2	2	選択	
	アメリカ地域関係論	2	3	選択	
	国際社会学	2	2	選択	
	中東・アフリカの政治と社会	2	2	選択	
	国際社会とジェンダー	2	3	選択	
	イスラム社会学	2	3	選択	
	国際教養演習Ⅰ	1	3	選択	
	国際教養演習Ⅱ	1	3	選択	
	国際教養演習Ⅲ	1	3	選択	
	国際教養演習Ⅳ	1	3	選択	
	国際教養演習Ⅴ	1	3	選択	
	国際教養演習Ⅵ	1	3	選択	
国際教養演習Ⅶ	1	3	選択		
国際教養演習Ⅷ	1	3	選択		
卒業研究	卒業研究演習	4	4	必修	8単位
	卒業論文	4	4	必修	

別表第2の2 国際教養学科の専門科目として認定可能な他学科の科目

環境科学科及び食・健康学科の授業科目名と単位数		履修学年	必修選択 の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
統計学 I (基礎)	2	1	選択	6単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。
環境法総論	2	1	選択	
環境政策総論	2	1	選択	
国際環境法	2	2	選択	
国際環境政策論	2	2	選択	
環境経済学	2	2	選択	
国際環境経済論	2	3	選択	
環境会計論	2	2	選択	
エコロジー経済学	2	3	選択	
都市空間デザイン	2	3	選択	
環境生活学	2	2	選択	
衣環境デザイン論	2	2	選択	
都市環境生活論	2	2	選択	
エコライフスタイル学	2	2	選択	
建築史	2	3	選択	
データサイエンス	2	2	選択	
環境数理学	2	2	選択	
コンピュータサイエンス	2	2	選択	
比較食文化論	2	1	選択	
地域ブランド論	2	3	選択	
食物危機管理論	2	3	選択	
フードビジネス論	2	3	選択	

別表第3 環境科学科の学科科目とその履修方法（その1）

科目区分	科目名	単位数			履修 学年	必修選択 の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
		講義	演習	実験 実習			
学科 基本 科目	基礎数学	2			1	必修	必修科目4単位、および選択※（「基礎物理学」「基礎化学」「基礎生命科学」「統計学I（基礎）」「環境法総論」）から8単位以上を含み12単位以上
	基礎物理学	2			1	選択※	
	基礎化学	2			1	選択※	
	基礎生命科学	2			1	選択※	
	統計学I（基礎）	2			1	選択※	
	統計学II（応用）	2			1	選択	
	環境科学概論	2			1	必修	
	環境法総論	2			1	選択※	

別表第3 環境科学科の学科科目とその履修方法（その2）

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
		講義	演習	実験 実習			
専門科目	環境自然科学基礎分野						環境自然科学履修コースについては、「基礎分析化学」2単位、「有機化学」2単位、「生命の分子的基盤」2単位、「細胞の生物学」2単位、および選択Aより4単位以上、選択Bより2単位以上を修得すること。
	基礎分析化学	2			2	必・選	
	有機化学	2			2	必・選	
	生命の分子的基盤	2			2	必・選	
	細胞の生物学	2			2	必・選	
	無機化学	2			2	選択A	
	基礎物理化学	2			2	選択A	
	分子生物学	2			2	選択A	
	生態学Ⅰ	2			1	選択A	
	基礎物理学実験			1	2	選択B	
	基礎化学実験			1	2	選択B	
	生命科学基礎実験			1	2	選択B	
	地球環境科学	2			2	選択	
	地球環境科学実験			1	2	選択	
	身の回りの科学実験			1	1	選択	
	環境物質探求分野						環境自然科学履修コースの環境物質探求分野の選択の場合は、「環境物質論および実習Ⅰ、ⅡA・ⅡB」4単位、および選択Cより10単位以上、選択Dより2単位以上を修得すること。
	環境有機化学	2			2	選択C	
	環境分析化学	2			2	選択C	
	環境機器分析学	2			2	選択C	
	大気環境科学	2			3	選択C	
	高分子化学	2			2	選択C	
	応用物理化学	2			3	選択C	
	環境物理学基礎	2			2	選択C	
	環境物理学	2			3	選択C	
	環境分析化学実験			1	2	選択D	
	有機高分子化学実験			1	3	選択D	
	環境物質基礎実験			1	3	選択D	
	水質管理の基礎	2			2	選択	
	環境計量の基礎	2			2	選択	
	機器分析基礎実験			1	2	選択	
	環境物質論および実習Ⅰ	2			3	必・選	
	環境物質論および実習ⅡA	1			3	必・選	
	環境物質論および実習ⅡB	1			3	必・選	
	環境生命探求分野						環境自然科学履修コースの環境生命探求分野の選択の場合は、「環境生命論および実習Ⅰ、ⅡA・ⅡB」4単位、および選択Eより8単位以上、選択Fより3単位以上、選択Gより4単位以上を修得すること。
	発生生物学	2			2	選択E	
	遺伝学	2			2	選択E	
	動物生理学	2			2	選択E	
	環境生理学	2			3	選択E	
	分子進化学	2			3	選択E	
	生態学Ⅱ	2			3	選択E	
	保全生物学	2			3	選択E	
	発生生物学実験			1	2	選択F	
動物生理学実験			1	2	選択F		
生態学実験			1	2	選択F		
環境生理学実験			1	2	選択F		
生命科学演習Ⅰ		2		2	選択G		
生命科学演習Ⅱ		2		3	選択G		
生命科学演習Ⅲ		2		3	選択G		
生命科学演習Ⅳ		2		3	選択G		
環境生命論および実習Ⅰ	2			3	必・選		
環境生命論および実習ⅡA	1			3	必・選		
環境生命論および実習ⅡB	1			3	必・選		

別表第3 環境科学科の学科科目とその履修方法（その2）

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
		講義	演習	実験			
専門科目	環境政策・生活分野						環境マネジメント履修コースについては、「環境政策総論」2単位、「環境生活学」2単位、「衣環境デザイン論」2単位、「エコライフスタイル学」2単位、「環境マネジメント実習Ⅰ、ⅡA・B」4単位を修得すること。それに加えて、選択※（「環境情報・データサイエンス分野」）から2単位以上を修得すること。
	環境政策総論	2			2	必・選	
	国際環境法	2			2	選択	
	国際環境政策論	2			2	選択	
	環境経済学	2			2	選択	
	国際環境経済論	2			3	選択	
	環境会計論	2			2	選択	
	エコロジー経済学	2			3	選択	
	環境経済学演習		2		2	選択	
	環境政策学演習		2		2	選択	
	都市空間デザイン	2			3	選択	
	環境生活学	2			2	必・選	
	衣環境デザイン論	2			2	必・選	
	都市環境生活論	2			2	選択	
	環境デザイン実習			1	2	選択	
	住環境デザイン分野						
	エコライフスタイル学	2			2	必・選	
	内空間環境工学	2			2	選択	
	環境人間工学	2			3	選択	
	環境衛生学	2			2	選択	
	環境生活基礎実験			1	3	選択	
	エコ・ライフ実験			1	2	選択	
	環境影響評価演習		2		3	選択	
	建築法規		2		3	選択	
	住居設計Ⅰ		2		3	選択	
	住居設計Ⅱ		2		3	選択	
	CAD演習		2		3	選択	
	環境計画実習			1	3	選択	
	建築施工	2			3	選択	
	住居設計学	2			2	選択	
	建築一般構造	2			2	選択	
	建築史	2			3	選択	
	構造力学	2			3	選択	
	建築設備学	2			3	選択	
	建築材料学	2			3	選択	
	環境情報・データサイエンス分野						
	データサイエンス	2			2	選択※	
	環境数学	2			2	選択※	
	データサイエンス演習		2		2	選択※	
	数理シミュレーション演習		2		2	選択※	
	地理情報科学	2			2	選択※	
	コンピュータサイエンス	2			2	選択※	
	プログラミング	2			2	選択※	
線形代数および多変量解析	2			2	選択※		
データベース概論および実習	2			3	選択※		
プログラミング演習		2		3	選択※		
調査・実験データ解析	2			3	選択※		
総合分野							
環境政策・情報総合演習Ⅰ		2		3	選択		
環境政策・情報総合演習Ⅱ		2		3	選択		
環境マネジメント実習Ⅰ	2			3	必・選		
環境マネジメント実習ⅡA	1			3	必・選		
環境マネジメント実習ⅡB	1			3	必・選		
卒業研究	卒業研究演習		4		4	必修	
	卒業論文			4	4	必修	

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。

なお、関連する講義－実験・実習一覧を別表第3の2に示す。

別表第3の2 環境科学科の実験実習等と関連する講義等科目一覧

実験実習等科目名	対応する講義等科目名
基礎物理学実験	基礎物理学
基礎化学実験	基礎化学
生命科学基礎実験	基礎生命科学
地球環境科学実験	地球環境科学
環境分析化学実験	基礎化学実験
有機高分子化学実験	基礎化学実験
環境物質基礎実験	基礎化学実験
発生生物学実験	生命科学基礎実験
動物生理学実験	生命科学基礎実験
生態学実験	生命科学基礎実験
環境生理学実験	生命科学基礎実験
環境生活基礎実験	内空間環境工学
エコ・ライフ実験	エコライフスタイル学
環境デザイン実習	衣環境デザイン論
環境計画実習	住居設計Ⅰ

各授業の開講の学年と時期は授業時間割をみることに。

○実験・実習の単位は、対応する講義の単位を修得した者のみに認める。

別表第3の3 環境科学科の専門科目として認定可能な他学科の科目

科目区分	国際教養学科の授業科目名と単位数		履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
環境自然科学科目	東アジア地域関係論	2	3	選択	2単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。
	東アジア経済論	2	3	選択	
	南アジアの政治と社会	2	2	選択	
	東南アジアの歴史と社会	2	2	選択	
	国際法Ⅰ	2	2	選択	
	国際法Ⅱ	2	3	選択	
環境マネジメント科目	マーケティング論	2	2	選択	10単位まで卒業に必要な専門科目の単位数に算入することができる。
	経済学	2	1	選択	
	法学	2	1	選択	
	政治学	2	1	選択	
	ヨーロッパ政治史	2	2	選択	
	国際政治史	2	3	選択	
	国際関係論Ⅰ	2	2	選択	
	国際関係論Ⅱ	2	3	選択	
	国際法Ⅰ	2	2	選択	
	国際法Ⅱ	2	3	選択	
	東アジア地域関係論	2	3	選択	
	東南アジアの歴史と社会	2	2	選択	
	社会心理学	2	2	選択	
	組織行動論	2	3	選択	
	経営学	2	1	選択	
	社会学	2	1	選択	
	国際開発論	2	2	選択	

別表第4 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その1）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験 実習				
学科基本科目	調理学	2			1	選択	8 単位以上	
	調理学基礎実習			1	1	選択		
	生化学 I	2			1	選択		
	生化学 II	2			1	選択		
	基礎実験			1	1	選択		
	基礎化学	2			1	選択		
	基礎生命科学	2			1	選択		
	基礎数学	2			1	選択		
	統計学 I (基礎)	2			1	選択		
	統計学 II (応用)	2			1	選択		
	比較食文化論	2			1	選択		
専門科目	グローバル社会の食と健康	保健医療福祉論	2			1	選択	「専門科目」については、演習科目 2 単位を含めて、合計 44 単位以上修得すること。
		実践疫学	2			2	選択	
		公衆衛生学	2			2	選択	
		公衆衛生学実習			1	3	選択	
		公衆栄養学 I	2			3	選択	
		公衆栄養学 II	2			3	選択	
		公衆栄養学実習			1	3	選択	
		公衆栄養学臨地実習			1	3	選択	
		地域ブランド論	2			3	選択	
		食物危機管理論	2			3	選択	
	人間の体と心の健康	生化学実験			1	1	選択	
		基礎栄養学実験			1	2	選択	
		人間構造機能学 I	2			1	選択	
		人間構造機能学 II	2			2	選択	
		人間構造機能学実験 I			1	2	選択	
		人間構造機能学実験 II			1	2	選択	
		病理学	2			2	選択	
		栄養生理学	2			2	選択	
栄養生理学実験			1	2	選択			

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。

なお、関連する講義—実験・実習一覧を別表第4の2に示す。

別表第4 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その2）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実 験 実 習				
専門科目	保健・医療・福祉・介護における食と健康	基礎栄養学	2			1	選択	「専門科目」については、演習科目2単位を含めて、合計44単位以上修得すること。
	栄養教育論Ⅰ	2				2	選択	
	栄養教育論Ⅱ	2				2	選択	
	栄養教育論Ⅲ	2				2	選択	
	栄養教育論実習			1		2	選択	
	応用栄養学Ⅰ	2				2	選択	
	応用栄養学Ⅱ	2				2	選択	
	応用栄養学Ⅲ	2				2	選択	
	応用栄養学実習			1		2	選択	
	スポーツ栄養学	2				2	選択	
	臨床栄養学Ⅰ	2				2	選択	
	臨床栄養学Ⅱ	2				3	選択	
	臨床栄養学Ⅲ	2				3	選択	
	臨床栄養学Ⅳ	2				3	選択	
	臨床栄養学実習Ⅰ			1		3	選択	
	臨床栄養学実習Ⅱ			1		3	選択	
臨床栄養学実習Ⅲ		1			3	選択		
臨床栄養学実習Ⅳ			2		3	選択		

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。

なお、関連する講義—実験・実習一覧を別表第4の2に示す。

別表第4 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その3）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実 実 験 習				
専門科目	食の安全・安心と機能	微生物学	2			1	選択	「専門科目」については、演習科目2単位を含めて、合計44単位以上修得すること。
		微生物学実験			1	2	選択	
		食品安全学	2			2	選択	
		食品安全学実験			1	2	選択	
		食品機能学	2			1	選択	
		食品機能学実験			1	2	選択	
		食品加工・貯蔵学	2			2	選択	
		食品分析化学	2			3	選択	
		食品分析化学実験			1	3	選択	
		給食経営管理論Ⅰ	2			2	選択	
		給食経営管理論Ⅱ	2			2	選択	
		給食経営管理実習Ⅰ			1	3	選択	
		給食経営管理実習Ⅱ			1	3	選択	
		給食の運営（校外実習）			1	3	選択	
		調理学応用実習			1	2	選択	
		調理科学	2			2	選択	
		調理科学実験			1	3	選択	
	実践食事計画	2			2	選択		
	フードビジネス論	2			3	選択		
	演習科目	食・健康科学基礎演習A		0.5		3	必修	
食・健康科学基礎演習B			0.5		3	必修		
食・健康科学総合演習A			0.5		3	必修		
食・健康科学総合演習B			0.5		3	必修		
卒業研究	卒業研究演習		4		4	必修	8単位	
	卒業論文			4	4	必修		

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。

なお、関連する講義—実験・実習一覧を別表第4の2に示す。

別表第4の2 食・健康学科の実験実習等と関連する講義科目一覧

実験実習等科目名	対応する講義科目名
調理学基礎実習	調理学
公衆栄養学実習	公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学
公衆栄養学臨地実習	公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ
公衆衛生学実習	公衆衛生学
生化学実験	生化学Ⅰ
基礎栄養学実験	基礎栄養学
人間構造機能学実験Ⅰ	人間構造機能学Ⅰ
人間構造機能学実験Ⅱ	生化学Ⅰ・Ⅱ、人間構造機能学Ⅱ
栄養生理学実験	栄養生理学
栄養教育論実習	栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱ、栄養教育論Ⅲ
応用栄養学実習	応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ
臨床栄養学実習Ⅰ	臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ
臨床栄養学実習Ⅱ	臨床栄養学Ⅲ、臨床栄養学Ⅳ
臨床栄養臨地実習	臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学Ⅲ、臨床栄養学Ⅳ
微生物学実験	微生物学
食品安全学実験	食品安全学
食品機能学実験	食品機能学
食品分析化学実験	食品分析化学
給食経営管理実習Ⅰ	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ
給食経営管理実習Ⅱ	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ
給食の運営(校外実習)	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ
調理学応用実習	調理学
調理科学実験	調理科学

各授業の開講の学年と時期は授業時間割をみること。

- 実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。
- 「公衆栄養学臨地実習」の単位は、対応する講義の単位並びに「公衆衛生学実習」及び「応用栄養学実習」の単位を修得した者のみに認める。
- 「臨床栄養臨地実習」の単位は、対応する講義の単位並びに「臨床栄養学実習Ⅰ」及び「臨床栄養学実習Ⅱ」の単位を修得した者のみに認める。